

ハヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2 に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

No3427 Stage-11

No1778 続報 前兆継続 → No1778 Stage-27 の「初現」を遡って再検討
→ 現状考えやすい推定発生時期 6/19±3 または 6/19 以降の可能性

前号では、No1778の発生時期が 6/5±3 又は 6/10±3 の可能性があるとの認識でした。その場合はNo3427のStage-11の前兆変動が、5/28±には終息する可能性が計算されました。しかし、本日現在も前兆変動は継続出現中です。従いまして前兆変動の初現認識が、またもや間違っていたことが確実です。このため前兆初現を再検討しました。No3427の Stage-11 の初現はCH26-PBF 特異が継続出現しだした3/25以前にあったことになり、考えやすいのは3/22からの秋田観測点のA5特異です。また No1778の

Stage-27 の初現は4/19から継続出現しだした高知観測点K9特異の可能性が考えやすいと再認識致しました。

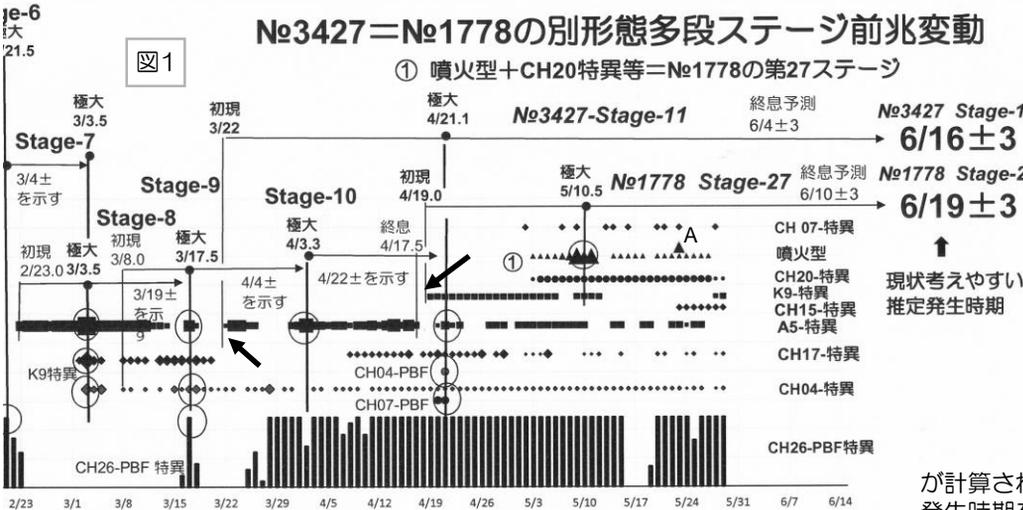
各初現認識は、左図1の中に矢印で示しました。

この認識からは、6/19±3 発生の可能性が示唆されます。しかし、この認識が正しいか否かは、まだ確定できません。仮に6/19±3発生が正しい場合には、

- ◆No3427のStage-11前兆の終息 →6/4±3の可能性
- ◆No1778のStage-27前兆の終息 →6/10±3の可能性

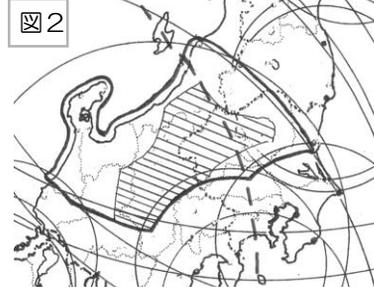
多段ステージ前兆No3427の後半部分表示

No3427=No1778の別形態多段階前兆変動

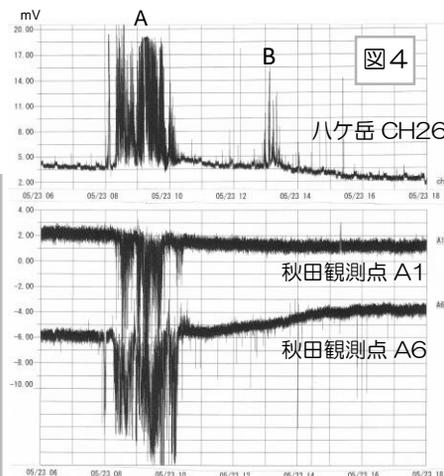


が計算されますので、これを確認してから発生時期を推定致します。続報します。

また5/23の02時からハヶ岳のCH15に特異変動が継続しだしています。次のステージの初現なのかまだ不明です。5/23には下図4のAのとおりハヶ岳と秋田に同期する噴火型変動が観測されています。図1にもAと記してあります。変動波形は浅間噴火前兆変動に似ていますが(解説資料24頁図74参照)、一日だけの出現のため火山近傍地震前兆認識です。仮にNo1778とは別の場合はハヶ岳近傍でハヶ岳より北よりの火山の近傍での地震活動の可能性が示唆されますが、No1778関連の可能性が考えやすいと思われれます。前述のCH15特異との関連も考えられます。今後を観測して、続報で報告させていただきます。



最近の観測からは点線より西側領域に震源がある可能性が考えやすい



5/23出現の火山近傍地震前兆変動

Aはハヶ岳・秋田同期の火山近傍地震前兆変動
Bは5/12以降微弱に継続する噴火型前兆変動

- 推定領域：図2の太線内領域=大枠推定領域
図2の斜線域=可能性考えやすい推定領域
震源が火山近傍領域を含む可能性高い

- 推定規模：M8.0±0.3
※噴火型前兆変動が観測されているため震源に近い火山の噴火の可能性も否定困難ですが、過去例と異なるため、噴火に至らない可能性も有

- 推定時期：6/19±3 または 6/19 以降の可能性
※前兆終息を確認して発生日計算予定

- 推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3